

コースメモ

77. 城谷川
78. 平蔵川(わんわん)
79. 橋一無名
80. 取水口⑩(板碇堰)

次号へ 吹上げ用水路周辺
(サイホン式水路)
(戸井がかり)

史跡メモ

針口の三差路
(くろつつ坂)

陣城跡

安徳大塚古墳

水田に写る夕焼け赤々と
広がるキャンパス油絵のごと
文子

〔溝掃除〕が行われます。安徳の水路はほとんどが三面側溝ですが、特に「沖溝線」は足場が悪く、川底に溜まった砂上げには、クレーン車を使うなど、苦勞が多いようです。

『板碇堰』の道路側に「東屋」が建っています。この周辺は、那珂川町の重要な史蹟を初め、多くの文化財が集まっています。「ぜひ、行つて見たい所」の筆頭に上げられる、魅力ある場所が多く点在しています。そばに『裂田溝』、西に『安徳台(迹驚岡)』、南に『岩門城跡』、正面には『陣城跡』があります。『陣城跡』は大塚遺跡群の発掘で見つかった戦国期の山城で、今は無くなってしまいましたが、遺物は、土師器・陶磁器・鉄釘などが出土しています。その東側には『安徳大塚古墳』があります。『安徳大塚古墳』は4世紀の古墳で、福岡平野で最も古い前方後円墳と言われています。

ます。丘陵の眺めが良いところに造られ、この地域の長のお墓と推測されています。長さは64mで、周溝の部分を含めると約81mと、大規模なものです。後円部は直径約35m、高さ約6m、前方部は幅約20m、高さ約2mで、墳丘からは埴輪や平たい石が出土していることから、築造された当初はきれいに葺石が敷かれ、埴輪が立ち並んでいたことでしょうか。主体部はよく分かっています。昭和40年代に福岡県が行った調査では、礫床粘土礫(木棺を礫床の上に安置し、その上を粘土で覆ったお墓の一部が見つかっています。残念ながら民地のため現地へ立入ることはできません。次号は、吹上用水路(サイホン式水路)周辺を紹介します。

安徳の針口は、南に『城山(岩門城跡)』、西に『安徳台(迹驚岡)』、東北に『炭焼』の接点にあり、ここから梶原・山田・安徳・炭焼・東隈などに向かつて道路が放射線状に延びています。針口はその名のとおり狭い所ですが、道路の要衝です。水路の要衝でもあり、安徳以下六区の水田もここを起点に東西に開けています。

また、ここは上梶原から流れてくる『城谷川』と、西から流れてくる『裂田溝』、さらに王塚台方向から流れてくる『平蔵川』が合流するところで、勢いよくぶつかった水の響が「わん・わん」と聞こえることから、通称「わん・わん」とも呼ぶようになったそうです。

この一帯は、大雨が降ると三方向からの水が合流し、裂田溝の水嵩が一挙に増します。そこで、浸水を防ぐために、道路下に水を逃がす「放水路」が造られています。放水路は護岸に取り付けられた水量計が120cmを越えると、自動的に「転倒堰」が作動する仕組みになっており、余水がこの堰より安徳台北側の地下水路を通り、最後は那珂川に架かる『轟橋』の上流へ排水する仕組みになっています。

『裂田溝』は「わん・わん」の50m下流から東へ大きく蛇行し、『板碇堰』の右岸へ曲り込みます。『板碇堰』は『裂田溝』の中で一番大きい井堰で、昭和50年代後半に改修工事が行われました。堰の両側は鋼鉄製の転倒式で、真ん中の3か所を板でせき止める構造になっています。堰の対岸は、平成19年度に水環境整備事業により改修工事が行われました。改修工事では、宝満石を使用した自然に配慮した工法で石積みがされ、工事の間避難していた魚たちも、戻りつつあります。この石垣の上の畑地に、昭和40年代前半まで「鍛冶屋」さんがあり、農機具が作られていたそうです。畑地と「板碇堰」の間には、ハンドル式の「巻き上げ水門」があります。ここで取水された水は、「沖溝線」でライスセンターの北側の田んぼへ入ります。この「沖溝線」も田植え前の5月下旬、農家総出で「溝公役」

探訪 105



那珂川町郷土史研究会

裂田溝32

板碇堰周辺

この一帯は、大雨が降ると三方向からの水が合流し、裂田溝の水嵩が一挙に増します。そこで、浸水を防ぐために、道路下に水を逃がす「放水路」が造られています。放水路は護岸に取り付けられた水量計が120cmを越えると、自動的に「転倒堰」が作動する仕組みになっており、余水がこの堰より安徳台北側の地下水路を通り、最後は那珂川に架かる『轟橋』の上流へ排水する仕組みになっています。



岩門城跡
正面の三角形の山が岩門城跡です。鎌倉時代、「元寇の役」の時には、九州武士団の総大将「少式景資」の居城であったといわれています。



沖溝線
田植え前の5月下旬、安徳区の農家が総出で手分けして「溝公役」(溝掃除)が行われます。この仕事ですむと農繁期に入ります。



板碇堰
板碇堰は裂田溝の中で一番大きい堰で、昭和50年代後半に改修工事が行われました。平成18年度の改修工事で、「東屋」や水辺に下りる石段が設置され、散策の人々の憩いの場として親しまれています。



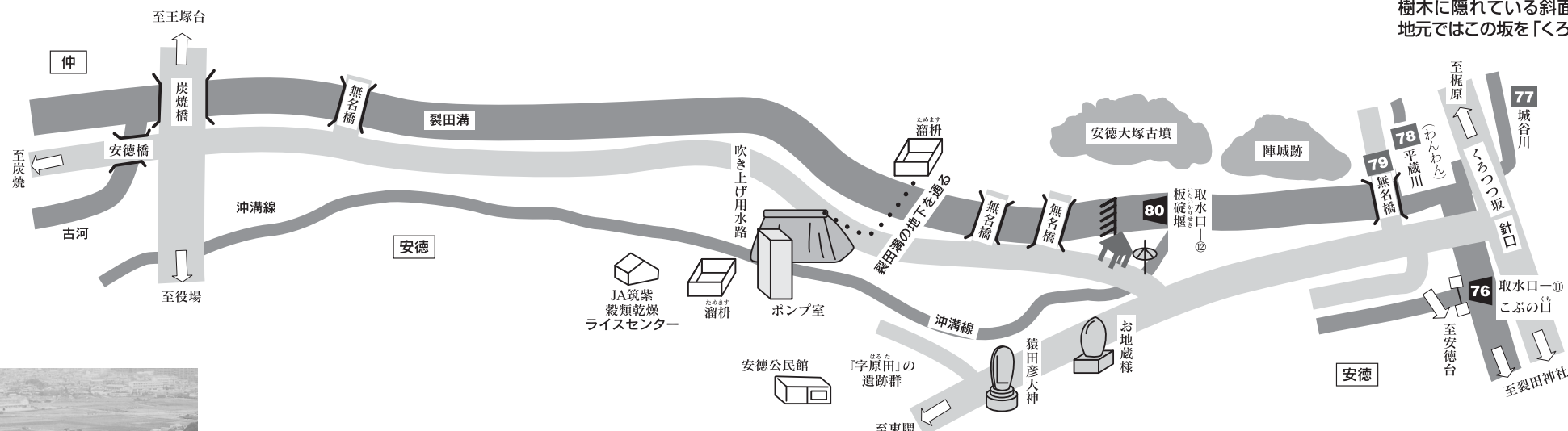
くろつつ坂
樹木に隠れている斜面は、黒い灰土の層です。地元ではこの坂を「くろつつ坂」と呼んでいます。



安徳大塚古墳
「那珂川町の文化財～町の遺跡地図より」発掘調査当時の写真です。民地のため現地に入るとは出来ません。



陣城跡
大塚遺跡群で見つかった戦国時代の陣城跡で、写真は岩門城の山頂から写したものです。現在は団地造成中で、立ち入ることは出来ません。



「わん・わん」
「城谷川」、「裂田溝」、「平蔵川」の3方向から流れ込んだ水がここでぶつかって、「わんわん」と聞こえるので、この辺りを「わん・わん」と呼ぶようになったそうです。